

# ～来業、企業、起業のかたち～木曾町未来型きぎょう拠点整備事業 長野県木曾町（長野県木曾町）

コンソーシアム名	木曾町ITビジネス推進コンソーシアム				
コンソーシアム参加機関名 (下線は代表機関)	長野県木曾町、木曾町商工会、特定非営利活動法人ふるさと交流木曾、株式会社タスクールPlus、MASTコンサルティング株式会社、一般社団法人日本地域資源研究所、BOCCA、zero_ichi works				
地方移動者数	従業員：4人	個人：1人	地元ワーカー数	従業員：0人	個人：1人
事業概要	<p>本事業は、木曾町が考える3つの「きぎょう」、すなわち来業(都市部からの企業誘致)、企業(地元企業の発展)、起業(地元の若者や移住者の創業)を実現する拠点を整備するものである。</p> <p>檜が有名な木曾町の建築産業の歴史は古く、建築木工デザインとはゆかりが深い土地である。さらにITを利用し地域をより豊かにするソーシャルデザインまで、木曾町のテレワークの全体コンセプトを“デザイン”とし、さまざまな団体や施設と連携しながら「きぎょう」に繋げるものである。本年度の事業は、市街地に設置する拠点「ワークセンター木曾町」を大企業のテレワーク拠点として耐えうるレベルまで整備し、魅力を向上させることを狙いとしている。</p>				

## 木曾町未来型きぎょう拠点整備事業

木曾の自然に囲まれた中で環境を変えて

### 来業、企業、起業、新しいかたち

※来業=きぎょう 人材・情報の交流  
出合いと学びの場

コラボビジネス支援

デザイン・ものづくり支援

起業・雇用・定住の支援

セミナー、教育の支援

人材交流・育成の支援

テレワーク環境

本来業務継続環境

情報共有

商品開発環境

### 木曾町ITビジネス推進コンソーシアム テレワーク群

ふるさと体験館  
建築・木工デザイン

市街地コワーキングスポット  
出版・ものデザイン

スキー場等リゾート内

※順次、整備

### 核となるテレワーク拠点



ワークセンター木曾町  
※補助対象事業

#### 都心企業

短期・長期出張テレワーク利用



地元企業・フリーランス・学生  
施設、設備利用・コワーキング

★木曾の素材や商材に都心企業と連携したデザインや発信力を加え、ビジネス創造の場とする。

★地元との交流に加え、21世紀スキルを学ぶ場など都市の人材の協力により、地方の人材育成を図る。

#### 都心企業

研修、テレワーク (株)パーソルホールディングス  
立教大学社会学部ほか



#### 都心企業

地元との交流・情報交換 ミズノ(株) ほか



手軽に気分転換



平成29年度予算ふるさとテレワーク推進事業  
～来業、企業、起業のかたち～木曽町未来型きぎょう拠点整備事業  
長野県木曽町（長野県木曽町）

## ■整備した拠点の概要

【名称】 ワークセンター木曽町

【住所】 長野県木曽町福島5-1-22 2階

【拠点へのアクセス】 JR中央線木曽福島駅より徒歩約15分

【利用対象者】 都市部からのテレワーク事業者、コワーキング事業者

【収容人数】 オフィス1～5（常駐各1名）、オフィス6兼サテライト会議室（4名）

【整備拠点で可能な業務】

入居利用者が都市部で行っていたWebデザイン、チラシデザイン、ソフトウェア設計、セミナー企画運営などを行う。

また、Webデザイン業務の地元ワーカーが顧客との相談、打合せ業務を行う。



## ■整備完了後の取組内容の概要

### 運営計画

今後整備を予定のテレワーク施設全体の中心地として活用するため、他地域でテレワークやコワーキング施設の構築、運営に携わったコンソーシアムメンバーを中心に、進出事業者数、利用者数の維持、増加を目指す。webデザインやソフトウェア設計、開発などテレワーク拠点で従事可能な業務での利用促進を図ると共に、交通の利便性、緑豊かで冷涼な気候による夏季の過ごしやすさの地域特性もPRしながら施設利用を図る。

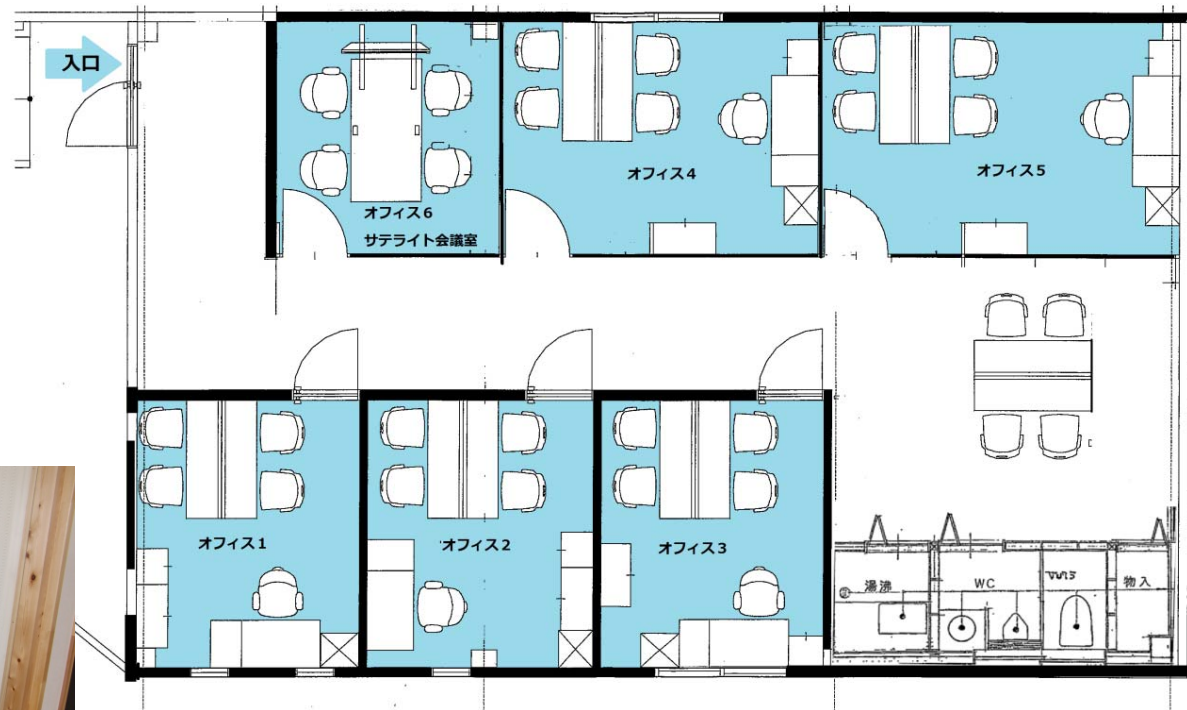
### 目標

平成29年度 都市部からの長期派遣4人 地元ワーカー1人

平成30年度 都市部からの移住1人、長期派遣4人、地元ワーカー1人

平成31年度以降 都市部からの移住1人、長期派遣4人、地元ワーカー1人

# (参考①) 整備した拠点について



- オフィス4・5(約13.5㎡) パーテーションで仕切られた個室。畏まらないつくりでリラックスして業務にむきあえる。
- オフィス6(約8㎡) サテライト会議室としても利用でき、ミーティングモニターを設備している。



- オフィス1～3 壁で間仕切りされた個室(約11㎡)。廊下に面した壁が透明になっているため、開放感がある(必要に応じてブラインドを使用できる)
- オートロックや監視カメラによる入退室管理を行い、セキュリティ対策を講じている。

# (参考②) 整備完了後の取組内容について

## = 運営計画 =

本地域は名古屋から特急で約90分の距離にあり、従前から中京の奥座敷として避暑地、別荘地として発展してきた経過がある。中山道を有する街道文化の住民気質で訪れる人を温かく迎え入れる土壌があり、進出企業の従業員が心地よさを感じながら業務できる環境を目指す。コンソーシアムを構成する事業者も名古屋圏で活躍する企業が多く、まずは名古屋圏からの進出を働きかけ、認知度を高めていく。

### ○今後の拠点の利用見込み

オフィス1から5のブースに各1名、計5名のテレワーカーが利用する。

実際に活用するなかでブラッシュアップし、安定した継続的な利用を目指す。また、オフィスブース奥のスペースをコワーキングとして活用し、ドロップイン利用者にも働く場所の提供に努めていきたい。

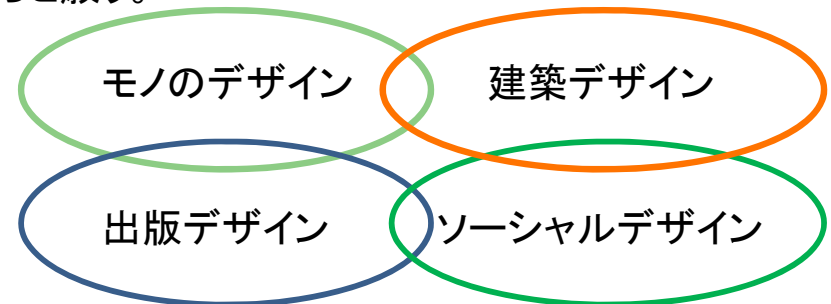
計画	目標
平成29年度	平成30年度以降
コンソーシアムメンバーが中心となって利用。	さらに東京、名古屋へ営業
・(株)タスクールPlus ・(一社)東海中小企業支援協会 ・(合)River-win ・Zero-ichi works  ・地元ワーカー	・他事業で連携している企業への働きかけ  ・ドロップイン利用の呼びかけ

### ●将来的に

この施設をきっかけに、将来的には、古民家や校舎を利用した体験施設、スキー場、別荘地などの施設を利用して一円をテレワーク群としていくのが目標。



●出版やモノのデザインから地域課題を解決するソーシャルデザインまで、デザインをキーワードにさまざまな企業と連携できたらと願う。



# (参考②) 整備完了後の取組内容について

＝テレワーク以外の利用＝

テレワークオフィスを利用する事業者の地元への紹介をかねて、プレイベントを行う。

＝補助金活用セミナー＝

事業者の得意分野で、地元役に役立つセミナーを開催。

＝児童のためのプログラム思考体験会＝

事業者の人脈を活かして、田舎では開催できなかったセミナーを開催。

教育過疎に不安をもつ地方の保護者に安心を与えることができるようになった。

～ワークセンター木曾町  
オープンプレイベント～

平成29年度、木曾町では木曾町福島上期にある空き店舗をテレワークセンターに整備しました。その紹介をかねて、事業者の皆様向けにプレイベントを開催します。お気軽にご参加ください。


事業者向け

**知っておきたい補助金活用セミナー**

日時：平成30年3月23日（金） 19時～21時  
場所：木曾町福島5122番地（上町）・旧マツヤ  
ワークセンター木曾町（仮称）

内容：事業に役立つ国と町の補助金制度をご紹介します。  
講師：名古屋市 タスクールPLUS 渡邊智浩氏  
定員：20名 参加無料  
お申し込み先  
木曾町総務課政策推進室  
TEL22-4280・FAX24-3600

この本の共同執筆者をお招きします！



中小企業のための  
**補助金・助成金  
徹底活用ガイド**  
2017・2018年版

監修 経士会  
編集 経士会 中小企業診断士チーム  
社会保険労務士チーム  
協力 株式会社ゼロプラス 株式会社リブアップ  
株式会社タスクールPlus

2016年 同友館で  
最も売れた本の  
最新版（実務書部門）  
**補助金・助成金  
定番の一冊！**  
株式会社タスクールPlus  
全面協力

中小企業庁 元長官  
北川慎介氏も  
**推薦**

～ワークセンター木曾町  
オープンプレイベント～

**未就学児向け・小学生向け  
ビジュアルプログラミング体験会**

～ 2020年小学校教育の必修化に備えて  
プログラム思考を学ぼう ～

「お子さんが大人になった時にどんな職業についているか想像できますか？」  
米国では今後10～20年の間に約47%の仕事がAIによって自動化され、65%の子どもたちが、現在まだ存在していない職業に就くと予測されています。また2020年には、小学校でプログラミング教育が必修化される予定です。先の予測できない時代を生き抜くのに必要な「21世紀型スキル」をプログラムの思考を通じて学ぶ体験会です。  
また、当日は、保護者の方向けに「21世紀型スキルやプログラミング教育って何？」というお話を致します。

◆日時 3月24日（土） 第一部 午前10時～11時30分  
第二部 午後1時～2時30分

◇場所 木曾町福島5122番地（上町）・旧マツヤ  
ワークセンター木曾町（仮称）2階

◆対象 ・未就学児4歳～6歳 各回4組  
・小学校1年～小学校6年 各回4組  
・次世代教育に興味・関心のある保護者

◇レッスン内容  
未就学児向けには、イギリスの教育機関でつかわれている木製知育玩具「キューベット」を使って遊び感覚で楽しく学びます。  
小学生向けには、パソコンを使ったビジュアルプログラミングを通じてプログラムの思考を体験していただきます。

◆講師 Cocoomieより派遣 <http://cocoomie.com/>  
（名古屋市中心に子供向けプログラミングを展開している団体です）

◇お申し込み先：木曾町総務課政策推進室 TEL22-4280・FAX24-3600  
（準備の都合上3月20日（火）までにお願います）



「プログラマー」  
本書で初めてビジュアルプログラミング教育の体験会を開催  
～ 未来の社会を生きる子供たちのために ～

「ビジュアルプログラミング教育」  
未来の社会を生きる子供たちのために  
～ 未来の社会を生きる子供たちのために ～

未就学児・幼児向けプログラミング教室  
Cocomie  
スクール「ココミュー」で  
プログラミング的思考を身につけよう！  
対象年齢  
4～6歳

現在とは全く異なる環境を生きる子どもたちへ  
今後10～20年の間に約47%の仕事がAIによって自動化され、65%の子どもたちが、現在まだ存在していない職業に就くと予測されています。また2020年には、小学校でプログラミング教育が必修化される予定です。先の予測できない時代を生き抜くのに必要な「21世紀型スキル」をプログラムの思考を通じて学ぶ体験会です。また、当日は、保護者の方向けに「21世紀型スキルやプログラミング教育って何？」というお話を致します。